

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表

令和6年6月28日

北都保健福祉専門学校 看護学科

科目名	学年	単位数	担当する教員の実務経験	教員氏名
基礎看護学概論	1	1	看護師として臨床経験5年以上	鳴海繭花
基礎看護学方法論Ⅶ	1	1	看護師として臨床経験5年以上	三上美紀
基礎看護学方法論Ⅷ	1	1	看護師として臨床経験5年以上	矢野優子 原田明奈 宗像祐二
成人看護学概論Ⅰ	1	1	看護師として臨床経験5年以上	矢野優子
老年看護学概論	1	1	看護師として臨床経験5年以上	細川とき子
基礎看護学方法論Ⅸ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	三上あすか 三上美紀
地域・在宅看護方法論Ⅱ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	谷 真弓
成人看護学方法論Ⅲ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	三上美紀 原田明奈
老年看護学方法論Ⅰ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	細川とき子
小児看護学方法論Ⅰ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	福原 緑
精神看護学方法論Ⅱ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	坂井聖康 鳴海繭花 三上あすか
診療の補助技術における安全	3	1	看護師として臨床経験5年以上	坂井聖康 畑中亜希美
	計	12		

科目名	基礎看護学概論		
担当教員	鳴海繭花		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
各看護学の基礎となる、看護の概念を学び、目的・役割・機能を理解する。また、看護実践の基盤となる、倫理および看護職の活動の広がりを学ぶ			
到達目標			
1.看護の定義および理論を知り、看護の概念を理解する			
2.看護の対象である人間を理解し、「健康」「環境」「暮らし」について学ぶ。			
3.看護の役割と機能を学び、看護と社会のつながりを理解する。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
看護とは何か？みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	看護とは ガイダンス・看護の変遷	鳴海
2	看護とは 看護の定義	鳴海
3	看護とは 看護の役割と機能	鳴海
4	看護の対象の理解 人間の「こころ」と「からだ」	鳴海
5	看護の対象の理解 発達し続ける存在としての人間の理解	鳴海
6	看護の対象の理解 人間の「暮らし」の理解／家族・集団・地域	鳴海
7	看護の対象の理解 グループワーク	鳴海
8	国民の健康状態と生活 健康の捉え方	鳴海
9	国民の健康状態と生活 国民の健康状態・ライフサイクル	鳴海
10	看護の提供者 職業としての看護 看護職の資格・養成制度	鳴海
11	看護における倫理	鳴海
12	看護の提供のしくみ チーム医療／サービス提供の場	鳴海
13	看護の提供のしくみ 看護制度・政策・看護管理・医療安全	鳴海
14	広がる看護の活動領域 国際化と看護／災害時における看護	鳴海
15	履修認定	鳴海

科目名	基礎看護学方法論Ⅶ		
担当教員	三上 美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
清潔の意義を理解し、各清潔援助の援助方法を習得する。 衣服を身につけることの意義を理解し、寝衣の交換方法を習得する。			
到達目標			
1.清潔の意義、留意点を理解する。 2.清潔の基本的な援助を実施することができる。 3.衣服を身につけることの意義、寝衣交換の留意点を理解する。 4.基本的な寝衣交換と制限のある方にたいする寝衣交換を実施することができる。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）技術試験（30％）			
学生へのメッセージ			
人にとっての清潔行動の意味をとらえ、看護の対象にとって安全で安楽な援助を実践するための知識・技術・態度を学びましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	清潔の援助の基礎知識	三上
2	衣生活の援助 援助の基礎知識と実際	三上
3	2.清潔援助の実際 ①入浴・シャワー浴 援助の基礎知識と実際	三上
4	②-1全身清拭 援助の基礎知識	三上
5	②-2全身清拭 援助の実際	三上
6	②-3全身清拭 援助の実際	三上
7	③-1洗髪 援助の基礎知識	三上
8	③-洗髪 援助の実際	三上
9	④手浴 援助の基礎知識と実際	三上
10	⑤足浴とフットケア 援助の基礎知識と実際	三上
11	⑥-1陰部洗浄 援助の基礎知識	三上
12	⑥-2陰部洗浄 援助の実際	三上
13	⑦整容	三上
14	⑧口腔ケア	三上
15	筆記試験 技術試験	三上

科目名	基礎看護学方法論Ⅷ		
担当教員	矢野 優子 原田 明奈 宗像 祐二		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
呼吸・循環機能に異常をきたした人へ援助の方法を学ぶ 創傷治癒を促進するための創傷管理と褥瘡予防の方法を学ぶ 救急対応時の知識と救急・急変患者への迅速な対応方法を学ぶ 診察・検査・処置を受ける患者の苦痛や不安を理解し、援助においての看護師の役割を学ぶ 死にゆく人と家族の心理を理解し、看取りのケアと死亡時の看護を学ぶ			
到達目標			
1.酸素吸入、一時吸引の目的と方法を理解し、呼吸機能に異常をきたした人への援助を習得する 2.体温調節、末梢循環促進への援助の目的・方法を理解し、循環に異常をきたした人への援助の実際を理解する 3.創傷の治癒過程を理解し、創傷管理の方法を習得する 4.救急対応の考え方、急変時における初期対応の流れと救命処置の実際を理解する 5.診察・検査・処置時の看護師の役割と介助の方法を理解する 6.看取りのケアと死亡時の看護を理解する			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
解剖生理の知識から、援助の理解を深めていきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	酸素療法 ①酸素吸入療法・人工呼吸療法の基礎知識	矢野
2	酸素療法 ②酸素吸入療法の援助（技術演習） 酸素ポンベの取り扱い 中央配管からの酸素吸入	矢野
3	排痰ケア ①排痰ケアの基礎知識 ②排痰ケアの実際 ③ネブライザーを用いた気道内加湿	矢野
4	吸引 ①一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引の基礎知識	矢野
5	吸引 ②一時的吸引の援助（技術演習） 口腔内・鼻腔内吸引	矢野
6	循環を整える援助 ①体温管理 ②末梢循環促進の援助	矢野
7	苦痛の緩和・安楽確保の技術 罨法 援助の基礎知識	矢野
8	苦痛の緩和・安楽確保の技術 罨法 演習	原田
9	創傷管理 ①創傷管理の基礎知識 ②創傷処置	原田
10	創傷管理 ③包帯法（技術演習）	宗像
11	褥瘡予防 ①褥瘡予防の基礎知識	宗像
12	褥瘡予防 ②体圧分散ケア（技術演習） 体位変換 ポジショニング	宗像
13	診察・検査・処置 ①診察の介助 ②検査・処置の介助	宗像
14	死の看取りの援助 ①死に至るまでの過程 ②死後の処置	宗像
15	履修認定	矢野 原田・宗像

科目名	老年看護学概論		
担当教員	細川 とき子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
<p>高齢者の特性をさまざまな側面から理解する。 高齢者の健康について学ぶ。高齢者疑似体験等を実施しながら、高齢者への理解を深めます。</p>			
到達目標			
<p>超高齢社会の様相、高齢者の倫理的課題を理解する。 老年看護の役割を理解する。 高齢者の身体・心理・社会的側面の加齢変化を理解する。 高齢者に対するヘルスアセスメントの方法を理解する。</p>			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80％）レポート（20％）			
学生へのメッセージ			
<p>高齢者疑似体験を授業の中で行います。 高齢者の時代・生活背景から高齢者を理解する目的でレポートを作成します。 講義・演習の順が変わることがあります。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	
老年看護学病態・疾患論	鳥羽研二	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	老いるということ、老いを生きるということ	細川
2	超高齢社会と社会保障	細川
3	超高齢社会における老年看護への期待	細川
4	老年看護のなりたち	細川
5	高齢者の生理的特徴（1） 老化とは 老化と寿命 認知・知覚機能	細川
6	高齢者の生理的特徴（2） 呼吸・循環機能 消化・吸収・代謝 排泄機能	細川
7	高齢者の生理的特徴（3） 免疫機能 運動機能 性機能	細川
8	高齢者の生理的特徴（4） 高齢者疑似体験	細川
9	高齢者の生理的特徴（5） 高齢者疑似体験	細川
10	老年症候群（1） 老年症候群の特徴 急性疾患に付随する症候	細川
11	老年症候群（2） 慢性疾患に付随する症候 ADL低下に合併する症候 フレイル	細川
12	高齢者のヘルスアセスメント	細川
13	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（1） 高齢者のフィジカルアセスメント	細川
14	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（2） バイタルサイン測定・身体測定 栄養評価 検査	細川
15	履修認定	細川

科目名	基礎看護学方法論Ⅸ		
担当教員	原田 明奈 矢野 優子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	前期	1	30
履修目的・授業概要			
検査を受ける患者の苦痛を理解し、安全・安楽な援助技術を学ぶ 薬物療法に関する基礎知識を学ぶ。さらに、薬物療法時の看護について理解し、その役割について学ぶ			
到達目標			
1.血液検査、尿・便検査、喀痰検査を理解し、それぞれの検査時の看護を理解する 2.生体情報のモニタリングの意義と看護の実際を理解する 3.与薬に関する基礎知識を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を理解する 4.薬物投与方法の特徴を理解し、援助の実際を理解する 5.輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際を理解する			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
演習では医療器具を使用します。 身だしなみと整え、安全に留意し演習に臨むようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	検体検査 ①血液検査（静脈血採血）	原田
2	検体検査 ②血液検査（動脈血採血、血糖測定） ③尿・便・喀痰検査	原田
3	生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②Spo2モニター ③血管留置カテーテルモニター	原田
4	症状・生体機能管理技術 心電図モニター・採血（技術演習）	原田
5	与薬 ①与薬の基礎知識 ②経口与薬・口腔内与薬 ③吸入	矢野
6	与薬 ③点眼 ④点鼻 ⑤経皮的与薬 ⑥直腸与薬	矢野
7	注射 ①注射の基礎知識 ②注射の準備	矢野
8	注射 ①注射の実施方法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）	矢野
9	注射 ②注射の実施方法（静脈内注射・点滴静脈内注射）	矢野
10	注射 ③注射の実施方法（点滴静脈内注射・中心静脈内カテーテルの管理）	矢野
11	注射 ④注射の実施方法（輸液速度・輸液ポンプ・シリンジポンプ・点滴静脈内注射による混注）	矢野
12	輸血管理 ①輸血管理の基礎知識 ②輸血管理の実際	矢野
13	与薬 座薬・点滴静脈内注射（技術演習）	矢野
14	与薬 筋肉内注射・皮下注射（技術演習）	矢野
15	履修認定	矢野 原田

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ		
担当教員	谷 真弓		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
<p>住み慣れた地域で療養生活を行う上で、療養者が必要な社会資源にはどのようなものがあるのかを再確認し、実際の訪問看護がどのように行われているかを学習していきます。</p>			
到達目標			
<p>1. 地域で暮らす療養者とその家族について理解できる 2. 地域・在宅看護に関わる制度が理解できる 3. 地域で暮らす様々な人々に関わる制度が理解できる</p>			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
<p>筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価</p>			
学生へのメッセージ			
<p>障害や疾病を抱えている方が居宅で暮らしを送る際、病院とは異なり万全とはいえない環境下におかれる場合が多く、災害や様々なリスクを抱えながら過ごされているのが現状です。このような方々が住み慣れた地域で穏やかに暮らしていくには、様々な法律や社会資源制度がなどの生活を支える制度が関わっています。自分がその場にいたらどうしたらいいだろうとイメージしながら講義に臨んでみてください。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	河原加代子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	1.地域・在宅看護の対象 (1)地域・在宅看護の対象者 (2)家族の理解 (3)地域に暮らす対象者の理解と看護	谷
2	2.地域における暮らしを支える看護 (1)暮らしを支える地域・在宅看護 (2)暮らしの環境を整える看護 (3)疾病とライフステージ	谷
3	3.地域での暮らしにおけるリスクの理解 (1)地域での暮らしにおけるリスクの理解 (2)地域での暮らしにおける災害対策	谷
4	4.地域・在宅看護にかかわる制度とその活用① (1)介護保険・医療保険制度 (2)地域・在宅看護に関わる医療提供体制	谷
5	5.地域・在宅看護にかかわる制度とその活用② (1)訪問看護の制度 (2)地域保健に関わる法制度 (3)高齢者に関する法制度	谷
6	6.地域・在宅看護にかかわる制度とその活用③ (1)地域保健に関わる法制度 (2)高齢者に関する法制度 (3)障害者、難病に関わる法制度 (4)権利保障に関連する法制度	谷
7	地域・在宅看護実践の場と連携 (1)様々な場、様々な職種で支える地域での暮らし (2)主な地域・在宅看護実践の場 (3)地域・在宅看護における多職種連携	谷
8	履修認定	谷
9		
10		
11		
12		
13		

科目名	成人看護学方法論III		
担当教員	三上 美紀 原田 明奈		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要 障害がある人の生活とリハビリテーションを支援する看護を学ぶ			
到達目標 1.障害とは何かについて学び、障害がある人の障害の認識過程を知る 2.障害をもちながら生活する人を支援する看護を学ぶ 3.対象の日常生活を再構築するための看護について学ぶ 4.脳神経に障害のある対象と家族の看護を理解する 5.腎機能に障害のある対象と家族を理解する 6.事例をもとに障害がある対象の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法 講義 演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（70％）レポート（30％） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ 運動機能障害・脳神経障害は早期に治療を行っても完全治癒は難しく機能障害を残すことが多い。機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、リハビリテーションにおける看護者の役割を深めてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	原 三紀子	医学書院	
系統看護学講座 専門 臨床看護総論	香春 知永	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	1.障害がある人とリハビリテーション 1) 回復期について 2)障害とは	三上
2	3) 障害がある人の障害の認識過程 4) 障害がある人のリハビリテーション	三上
3	2.障害がある人とその生活を支援する看護 1) 障害がある人とその生活を支援する看護の特徴 2)看護の実際 (1)急性期のリハビリテーション	三上
4	(2)回復期のリハビリテーション	三上
5	(3)生活期のリハビリテーション	三上
6	脳神経に障害のある対象の看護 1)疾患の理解（脳梗塞） 2)対象の理解	原田
7	3)疾患の病態サマリー 4)症状と看護	原田
8	5)退院に向けたセルフケアと看護	原田
9		原田
10	腎機能に障害のある対象の看護 1)疾患の理解（糖尿病性腎症） 2)対象の理解 3)疾患の病態サマリー 4)症状と看護	三上
11	5)退院に向けたセルフケアと看護	三上
12	機能障害がある対象の事例展開 事例：脳梗塞 1)アセスメント	三上
13	2)アセスメントに基づいた問題の明確化 3)看護計画の立案	三上
14	4)実施・評価	三上
15	履修認定	三上 原田

科目名	老年看護学方法論Ⅰ		
担当教員	細川 とき子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	前期	1	30
履修目的・授業概要			
高齢者が生活を円滑に進めるための援助ができる。高齢者のリスクマネジメントの概要について理解する。			
到達目標			
高齢者の日常生活動作の援助や支援を行うことができる。様々な場の特徴をふまえた看護の概要が理解できる。高齢者の医療安全・救命救急・災害の概要が理解できる。			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ			
高齢者に対する日常生活援助について、講義で学習したあと演習にて学んでいきます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	高齢者の生活機能を整える看護（1） 日常生活を支える基本的活動	細川
2	高齢者の生活機能を整える看護（2） 起居動作 移乗 移動 ポジショニング	細川
3	高齢者の生活機能を整える看護（3） 食事・食生活	細川
4	高齢者の生活機能を整える看護（4） 食事・食生活演習	細川
5	高齢者の生活機能を整える看護（5） 排泄	細川
6	高齢者の生活機能を整える看護（6） 清潔	細川
7	高齢者の生活機能を整える看護（7） 清潔演習	細川
8	高齢者の生活機能を整える看護（8） 生活リズム	細川
9	高齢者の生活機能を整える看護（9） コミュニケーション セクシュアリティ 社会参加	細川
10	生活・療養の場における看護（1） 高齢者とヘルスプロモーション	細川
11	生活・療養の場における看護（2） 保健医療福祉施設および居住施設における看護	細川
12	生活・療養の場における看護（3） 家族の看護 多職種実践	細川
13	高齢者のリスクマネジメント（1） 医療安全・救命救急	細川
14	高齢者のリスクマネジメント（2） 災害	細川
15	履修認定	細川

科目名	小児看護学方法論Ⅰ		
担当教員	福原 緑		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
子どもの心とからだの健全な発達を援助するため、成長発達過程を理解し、子ども時代の健康生活の意義や養育のあり方を学ぶ。			
到達目標			
1.小児各期の成長・発達の特徴がわかる			
2.小児各期の生活過程を支援する方法がわかる			
3.小児、その家族との人間関係の成立・発展させる方法が理解できる			
授業の形式・方法			
講義 ディベート 小テスト レポート			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
不合格者は、筆記試験とし再評価			
学生へのメッセージ			
教科書を読みながら受講、復習しましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間 美保	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	小児各期の特徴 胎児、新生児	福原
2	小児各期の特徴 乳児期	福原
3	小児各期の特徴 幼児期	福原
4	小児各期の特徴 学童期	福原
5	小児各期の特徴 思春期・青年期	福原
6	小児各期の特徴 家族、医療費、予防接種、学校保健	福原
7	障がい 障がいの種類と特徴、看護	福原
8	虐待 児童虐待の種類と特徴、看護	福原
9	災害 災害の種類と対策、看護	福原
10	先天異常 先天異常の種類と特徴、看護	福原
11	事故 事故の種類と防止策、看護	福原
12	出生前診断 ディベートの練習	福原
13	子どもを取り巻く現状 小児医療・看護、学校、福祉の課題	福原
14	ひとがうまれるということ 産まれる、育つ、亡くなるについて考える	福原
15	履修認定	福原

科目名	精神看護学方法論 II		
担当教員	鳴海 繭花 坂井 聖康 三上 あすか		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
精神障害をもつ人へのケアの基本的な方法、回復を支える治療的アプローチを学ぶ。治療的環境をつくり出すために看護師に求められていることを学ぶ。看護には感情労働の側面があり、メンタルヘルス上の問題を引き起こす可能性があることを知る			
到達目標			
1) ケアの原則がわかる 2) ケアの基本的な方法がわかる 3) 患者にとっての回復リカバリーの意味を理解する 4) 治療的環境の条件がわかる 5) 地域で暮らす精神障害者の生活を支援する方法を理解する 6) リエゾン精神看護の役割と活動を知る 7) 感情労働が看護師のメンタルヘルスに及ぼす影響を知る			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験 (100%)			
学生へのメッセージ			
予習・復習をして授業を受けてください、			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の基礎	武井麻子	医学書院	
精神看護の展開	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	ケアの前提	坂井
2	ケアの原則	坂井
3	ケアの方法	坂井
4	回復を支援する リカバリーのプロセス	鳴海
5	回復を支援する リカバリーを促す環境・方法	鳴海
6	回復を支援する さまざまな回復のためのプログラム	鳴海
7	回復を支援する 回復のためのプログラムの実際	鳴海
8	地域におけるケアと支援 地域における生活支援の方法	三上 あ
9	地域におけるケアと支援 職場におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
10	地域におけるケアと支援 学校におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
11	リエゾン精神看護	坂井
12	リエゾン精神看護	坂井
13	感情労働としての看護	坂井
14	看護師のメンタルヘルス	坂井
15	履修認定	坂井

科目名	診療の補助技術における安全		
担当教員	坂井 聖康 畑中 亜希美		
実務経験	あり		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
医療の質と安全の確保に必要な思考と技術を講義、演習を通して、実践的に学ぶ。			
到達目標			
1. 医療事故が起こる原因が理解できる			
2. 医療事故防止の考え方が理解できる			
3. 起こりやすい医療事故とその対策を理解できる			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門分野医療安全	川村治子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	医療安全/ヒューマンエラー・医療安全を学ぶ意義 医療事故・看護事故の構造/防止の考え方	坂井
2	医療安全とコミュニケーション 労働安全衛生上の事故防止	坂井
3	共通する間違いと発生要因 患者間違いの主な要因と防止	坂井
4	共通する間違いと発生要因 多重課題、タイム [®] レクチャー/新人の特徴	坂井
5	患者に投与する業務における事故防止 注射業務	畑中
6	患者に投与する業務における事故防止 注射業務に用いる機器	畑中
7	患者に投与する業務における事故防止 輸血・内服与薬・経管栄養業務	畑中
8	患者に投与する業務における事故防止 演習：事件事例から原因と対策を考える	畑中
9	患者に投与する業務における事故防止 演習：事件事例から原因と対策を考える	畑中
10	患者に投与する業務における事故防止 演習：事件事例から原因と対策を考える	畑中
11	チューブ類の観察・管理における事故防止 チューブ管理と事故防止	畑中
12	チューブ類の観察・管理における事故防止 主要なチューブの危険・自己抜去防止	畑中
13	療養上の世話の事故防止 看護師の介入下・非介入下での事故	坂井
14	療養上の世話の事故防止 転倒・転落防止/窒息・誤嚥/入浴中の事故	坂井
15	履修認定	坂井 畑中